



森とアースへのECO-プロジェクト
平成28年度 実施報告書

環境開発工業株式会社

全国オイルリサイクル協同組合
森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム

廃油リサイクルから森づくりへ

わが社は、北海道北広島市にて廃油をはじめとする各種廃棄物のリサイクルに取り組み、本年度41年を迎えます。創業当時は大量生産、大量消費の時代であり、自然や資源は「無限」かのように、環境に対する取り組みが希薄な時代でした。2000年代に入り、国民全体の環境意識も高まり、特に私どもの業界は単純処理から「リサイクル」を初めとし、幅広い意味で環境の取り組みをしなければならぬ使命を受けるに至りました。

また、私どもが根差している北海道は、都道府県の中でも人口一人あたり約1.0haもの森林を所有していると言われ、あたり前のように自然に囲まれた生活していますが、この豊かな環境を次世代に繋いでいくためには、植林はもちろんのこと、間伐、土壌、そしてあらゆる生物が共存できるよう、様々な視点で森林維持活動を行い、CO₂削減を初め、生物多様性の保全活動にも貢献していかなければなりません。

そこで本プロジェクト発足の一昨年前より「北海道環境財団」を通じて北海道内の市町村の森づくりの支援を行っており、本年度は弊社が加盟いたします全国オイルリサイクル協同組合がたちあげました「森とアースへのECOプロジェクト」に参加し、取組みにご賛同いただいた7社のお客様と弊社による社会貢献活動の一環として、廃油リサイクル事業の収益の一部を、プロジェクト推進事務局である公益財団法人北海道環境財団へ寄付させていただき、「森づくり」に取組まれている自治体を支援いたしました。平成28年度は全国の先進的な環境・森林保全に取り組む環境モデル都市5町村（北海道下川町、岐阜県御嵩町、岡山県西粟倉村、高知県梶原町、熊本県小国町）において、植林や間伐を含む森林管理等の「森づくり」を通じた温室効果ガス削減や生物多様性保全の取り組みを支援いたしました。

弊社は、これまでも廃油リサイクル等を通して循環型社会構築への貢献に努めてまいりましたが、お客様のご賛同のもと「廃油リサイクルから森づくり」を掲げ、さらなる社会貢献に努めてまいります。

2017年（平成29年）3月吉日

環境開発工業株式会社
代表取締役社長 高澤 洋一

ご賛同企業7社様 順不同・敬称略

札幌トヨタ自動車株式会社、札幌トヨペット株式会社、札幌日産自動車株式会社、北海道エネルギー株式会社、北海道日産自動車株式会社、北海道マツダ販売株式会社、北海道三菱自動車販売株式会社

森とアースへのECO-プロジェクト概要

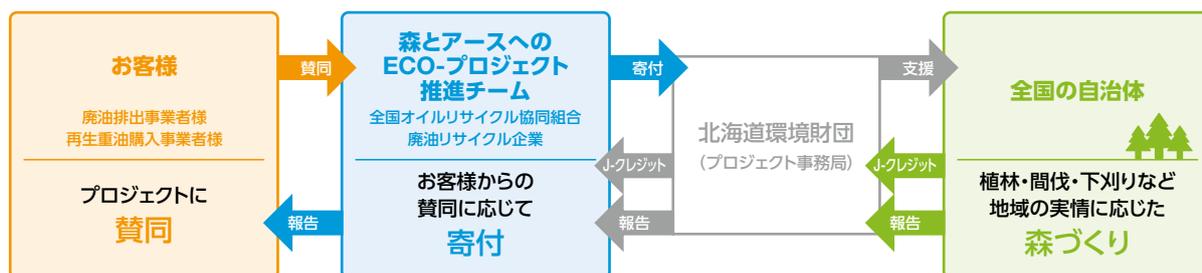
廃油の適正処理とリサイクル事業に取り組む企業で構成する「全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム※」は、日本各地の森づくりと地球温暖化防止に資する社会貢献事業として「森とアースへのECO-プロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトを「お客様とともに取り組む社会貢献活動」として位置づけ、お客様のご賛同のもと、各社が廃油リサイクル事業の収益の一部を拠出し、低炭素社会の実現に向けて先進的に取り組む全国の環境モデル都市・環境未来都市と連携した植林等の森林保全活動を推進しました。

平成28年度は、北海道下川町、岐阜県御嵩町、岡山県西粟倉村、高知県梶原町、熊本県小国町の5町村と連携し、各地の実情に応じた森林保全活動を実施しました。また、森づくりの結果として生じるCO₂吸収量をカーボン・クレジットとして確保しており、今後廃油リサイクル事業において排出されるCO₂のオフセット等の取り組みを実施予定です。

会員企業（寄付者）が、お客様（賛同）の協賛を得て、自治体（支援先）と連携する新しい形の社会貢献事業として、今後も全国各地への拡大・継続を図ります。

※ 構成員：環境開発工業株式会社、株式会社和光サービス、株式会社朝田商会、株式会社太陽油化、株式会社東亜オイル興業所、株式会社ダイセキ、株式会社M.O.C、岩谷化学工業株式会社、株式会社サンエム、オメガオイル株式会社、全国オイルリサイクル協同組合



廃油リサイクル企業（寄付） — お客様（賛同） — 自治体（森づくり） が連携して

日本の森づくりと地球温暖化防止に貢献

北の森林共生低炭素モデル社会

北海道下川町

下川町は北海道の北部、旭川市から北に約100kmに位置しており、町の面積64,420haのうち88%が森林という豊かで美しい自然と森林資源に恵まれた地域です。内陸部に位置することから夏の最高気温は約30℃、冬の最低気温は約-30℃と気温差が大きく、また11月下旬から3月下旬頃まで降雪が続く積雪寒冷地です。



戦後は鉱業が栄え、昭和35年には人口15,000人を数えるほどでしたが、現在ではおよそ3,400人。急速な過疎化が地域の大きな課題となっています。そうした中においても、冬のしばれを利用した氷のランプシェード「アイスキャンドル」や草地造成の際に排出された大量の石から「万里長城」を築城するなど工夫やアイデアによって地域を元気づける活動が町民たちの手で行われてきました。

また、早くから盛んだった林業・林産業についても「循環型森林経営」を掲げ、林業従事者の雇用の場の確保や、伐採した木材を地域内へ安定供給するほか、未利用資源（森林バイオマス）の活用やカーボンオフセットなど、地域森林資源の有効活用をすすめながら、誰もが暮らしたい、そして誰もが活力のある「森林未来都市しもかわ」の実現を目指しています。



下川町の森づくり

当町は1953（昭和28）年に、国有林から1,221haの払い下げを受けました。これを機に積極的に植林を進め、現在4,700haの町有林を管理しています。毎年約50haの植林と伐採を続けることで、「植林50ha×伐採60年」の循環型森林経営システムを構築、雇用の確保と安定的な林産物の生産が可能になりました。



森林資源は森の大切な恵みとして地域全体で無駄なく活用しています。住宅部材や梱包材などの用材利用を基本としていますが、利用されていない、若しくは低質な木材の有効利用として木質バイオマスボイラーによるエネルギー利用も行っております。現在、下川町にある公共施設全体の熱需要のおよそ60%はこうした木質バイオマスによるボイラーで賄われています。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



場 所：下川町班溪

面 積：496.64ha

施業内容：造林、下草刈り、除伐、間伐、主伐

※樹種・植樹本数：トドマツ（49,960本）、カラマツ（13,520本）、アカエゾマツ（3,720本）

施業時期：平成28年4月～
平成28年12月

下川町長からのメッセージ

このたびは下川町の森林づくりに対して格別のご高配を頂きまして厚くお礼を申し上げます。

下川町は昭和28年以降、機会あることに国有林の払い下げを受け、現在約4,700haの町有林を有し、50haの植林・伐採を60年サイクルで行う「循環型森林経営」を実施しており、地域に安定した木材の供給と、雇用が創造されています。これにより林業・林産業の活性化はもちろん、地産地消型のエネルギー利用から子育て支援まで幅広く波及展開が図られ、下川町が目指す持続可能な地域が着実に具現化されております。

今後とも下川町の取組みに対して応援いただけましたら幸いです。



下川町長 谷 一之

地域資源を活かした低炭素コミュニティ

岐阜県御嵩町

御嵩町は、岐阜県中南部木曾川南岸に位置しており、町の面積56.69km²のうち約60%が森林という、緑豊かな風景が広がるまちです。自然の豊かさを身近に感じられる“里山のまち”として自然を大切にしており、森林整備においても全国で2例目となる「森林経営信託方式」を採用し、持続可能な森づくりに努めています。



本町は、交通アクセスの良好さから、自動車関連などの製造業が進出しており、中京圏はもとより、関東圏、関西圏などへより広域的な活動が行われている「産業のまち」となっています。一方で、時代をさかのぼると、戦前戦後には炭鉱のまちとして栄えた時代が、また、江戸時代には京都と江戸を結ぶ中山道の宿場町として栄えました。宿場町の面影は今なお色濃く残っており、「歴史のまち」でもあります。

「自然」と「産業」と「歴史」。これらが調和したまちづくりを進めており、国からは環境モデル都市の選定を受けています。森林の保全・活用・そして再生を推し進めることで、低炭素化社会を実現し、さらにこの豊かな自然を未来へと引継いでいくことを目指しています。



御嵩町の森づくり

当町の森林面積は33.78km²で、まちの面積の約60%を占めています。スギ・ヒノキなどの人工造林が多く、木々が密生しており森林整備を進める必要があります。こうした森林は二酸化炭素の重要な吸収源として位置付けており、その持続可能な管理を図るため、全国で2例目となる「森林経営信託方式」を採用して町有林236haの計画的な間伐施業を進めています。



また、町民有志の森林ボランティアが、里山保全を目的とした町有林0.5haの除伐や下刈りなどの整備や苗木育成に取り組んでいます。子どもたちへの環境教育にも重点を置いており、森林を保全していく大切さを伝えています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



場 所：岐阜県可児郡御嵩町字北山
面 積：約0.5ha
施業内容：除伐
施業時期：平成28年5～11月



御嵩町長からのメッセージ

御嵩町は、環境モデル都市として、CO₂の大幅な排出削減・吸収を目指しており、環境への高い意識を持ち、未来を見据えたまちづくりを進めているところです。

この度、「森とアースへのECO-プロジェクト」により、ご寄付をいただきましたことは大変ありがたく存じます。今後も、森林の整備や環境教育などの取組を重点的に推進し、我々の地域環境が地球環境につながっていることを住民一人ひとりが認識して行動できるようにしていきたいと考えております。



御嵩町長 渡邊 公夫

上質な田舎へ

岡山県西粟倉村

西粟倉村は岡山県の北東部、兵庫県及び鳥取県の県境に位置する人口1,505人の山村です。面積57.97km²のうち95%を森林が占めており、その森林面積の約85%がスギ・ヒノキの人工林で、長期的な間伐等の適切な管理が必要となっています。村面積の大半を占める森林を軸とした地域活性化を通じて、小規模自治体としての生き残りを模索しています。



そうした中、樹齢百年の美しい森林に囲まれた「上質な田舎」を実現するというビジョンである「百年の森林構想」を着想し、構想の実現に向けた「百年の森林事業」に取り組んでいます。「百年の森林事業」では、地域住民と西粟倉村役場、森林組合が協働し、ICTの活用や地域商社「(株)西粟倉・森の学校」の設立など、森林保全・林業活性化における先駆的・先導的な取組を行っています。

また、再生可能エネルギーの導入等を通じた低炭素社会の構築にも取り組んでおり、小水力発電の拡大や、「百年の森林事業」に基づく森林バイオマスの活用等を通じて、再生可能エネルギーによる自給100%の地域作りを目標にしています。限りある自然の恵みを大切な人たちと分かち合う「上質な田舎」を目指しています。



西粟倉村の森づくり

当村では、平成21年より、村が個人有林を含めて、村内森林の一括管理を行う「百年の森林事業」を始めました。

この事業により、整備が困難であった山林で間伐を進めています。また、間伐材を村内企業により加工・販売することで経済の活性化を目指し、従来500m³/年程度であった木材搬出量も、平成27年には約5,300m³/年（7年で10倍以上）を搬出。村の労働人口の2割強を林業・木材関係事業従事者となり、少しずつ成果が見え始めています。

平成26年度からは、林地残材を利用した薪ボイラーで温泉を沸かす等再生可能エネルギーの有効活用に取り組み、木材を余すことなく使う仕組みづくりを進めています。



森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



場 所：西粟倉村大字大茅
面 積：5.22ha
施業内容：間伐
施業時期：平成28年10月下旬～
12月中旬



西粟倉村長からのメッセージ

この度は、西粟倉村の「百年の森林構想」に対し「森とアースへのECOプロジェクト」によりご支援をいただき村民一同感謝いたしますとともに心よりお礼申し上げます。

「百年の森林構想」は、「約50年生にまで育った 森林の管理をここで諦めず、村ぐるみであと50年がんばろう。そして美しい百年の森林に囲まれた「上質な田舎」を実現していこう。」という西粟倉村の森づくりのビジョンです。村はビジョン達成のため一層努力いたしますので、これからも支援いただければ幸いです。



西粟倉村長 青木 秀樹

雲の上の町

高知県梼原町

梼原町は高知市から西方に82kmの愛媛県境に位置しており、雄大な四国カルスト高原と清流四万十川流域として知られる渓谷にある山村です。町の総面積23,645haのうち91%をしめる林野を大切な資源として捉え、「森と水の文化構想」のもと、環境、健康、教育を柱とした地域づくりに取り組んでいます。



当町の森林組合は、団体として日本で初めて適切な森林管理を認証するFSC森林認証を取得し、持続的な森林経営の実現に努めています。また、木質バイオマスの地域循環を進めるべく、間伐施業の過程で発生する林地残材等について、企業や森林組合等と協力して木質ペレット燃料に加工、再生可能エネルギーとして活用しています。

他にも、風力、太陽光、小水力、など様々な自然エネルギーの活用にも取り組んでおり、2050年には温室効果ガス排出量70%削減と、地域資源利用によるエネルギー自給率100%超を目指しています。森、水、風、光など、地域の多様な自然エネルギーとともに、生き物にやさしい低炭素なまちづくりを進めています。



栲原町の森づくり

当町の森林の多くは、昭和30年代に植栽されたスギ・ヒノキなど人工林が占めています。これらの森林は、引き続き間伐等の森林整備が必要であることから、林道、作業道等の基盤整備や間伐施業等を実施しています。

また、そうした森林資源の循環利用もすすめており、間伐材や端材などからの木質ペレット生産や、その利用を推進しています。町内では特別養護老人ホームや中学校などに木質ペレットを利用するストーブ・ボイラーを設置し、大きなCO₂削減効果を生み出しています。さらには、町産材の活用にもつとめており、町産材を用いた町庁舎等公共施設の整備や、体験型木造モデル住宅によるLCCM（ライフサイクルカーボン・マイナス）住宅の普及促進などにも努めています。



森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



場 所：栲原町後別当
面 積：13haの搬出間伐に利用する作業道
施業内容：次年度搬出間伐の為の作業道作成

※森林整備を行う為には、作業道開設を行う必要があります。当町では木材を有効活用するため、作業道を作り木材を低コストで森林から搬出しております。

施業時期：平成28年12月～
平成29年3月

栲原町長からのメッセージ

この度は栲原町に過分なご寄付金を賜りまして誠に有難うございました。皆様方の温かいご支援に、あらためて心より厚く御礼申し上げます。

木材を低コストで森林から搬出するための森林整備事業におきまして、お志を使わせていただき、間伐材の有効活用につなげていきたいと考えております。また、環境モデル都市として森林づくりを通じた栲原町の低炭素なまちづくりの実現に向けて、取り組みを進めていく所存でございます。

どうぞ、今後もお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。



栲原町長 矢野 富夫

地熱とバイオマスを活かした農林業タウン

熊本県小国町

小国町は九州のほぼ中央、熊本県の最北端、阿蘇外輪山の北側にあり、筑後川の最上流に位置しています。東西北部を大分県、南部を南小国町と隣接し、東西18km、南北11kmで、総面積は137km²。その総面積の74%は山林が占めた農山村地域です。

夏は涼しく冬は厳しい高冷地帯（平均気温13℃）にあり、年間降雨量は2,300mmと多雨多湿で森林の生育に適しています。そうした地理的条件のもと、主な産業として古くから林業が盛んで、地域の杉は木質の良さから「小国杉」として盛んに取引されてきました。また、阿蘇火山帯に位置していることから、杖立温泉、わいた温泉など日本有数の湯治場としても知られており、冬場には地域全体が蒸気に包まれるほどの資源量を誇ります。

当町では、こうした豊かな自然環境と大地から生まれる資源である「地熱」や「バイオマス」を積極的に活用することで、地域でのエネルギーを供給し、効率的なエネルギーの活用を図ることで農林業など地域産業の活性化に取り組んでいます。



小国町の森づくり

小国町の森林面積は10,695ha、うち人工林は7,683haで、その92%を杉が占めています。林業の活性化を目指し、計画的・集約的な間伐をはじめとする森林施業の実施、中核的担い手である森林組合の体質強化、林業労働力の育成確保などの取り組みを進めています。

また、森林資源のより一層の効率的な利用を図るために、再生可能エネルギー資源として針葉樹のチップや薪の製造・利用を検討しているほか、林地残材の有効利用と副産物から収入を確保し、林業収入の安定化を目指しています。小国杉のアロマオイルや木のおもちゃ等の製造販売もすすめており、杉製品の多様化に努めながら小国杉のブランド化に取り組んでいます。



森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



場 所：小国町大字下城ほか
面 積：26.72ha
施業内容：下草刈り
施業時期：平成28年6月～9月



小国町長からのメッセージ

このたびは平成28年度森とアースへのECO-プロジェクトのご支援、感謝いたしますとともに心より御礼を申し上げます。

今や林業地は材価の問題や森林作業を行う人材不足等により、山林の適正な維持管理が大変難しくなっています。いただきました浄財は、持続可能な森林経営と森林を核とした環境づくりのための貴重な財源として使わせていただきます。



小国町長 北里 耕亮

環境開発工業株式会社

北海道北広島市北の里41番地27
TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499
URL : <http://www.kklp.co.jp/>

全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム

<プロジェクト推進チーム 構成員>

環境開発工業株式会社、株式会社和光サービス、株式会社朝田商会、株式会社太陽油化、株式会社東亜オイル興業所、株式会社ダイセキ、株式会社M.O.C、岩谷化学工業株式会社、株式会社サンエム、オメガオイル株式会社、全国オイルリサイクル協同組合

<森とアースへのECO-プロジェクト事務局>

公益財団法人北海道環境財団
北海道札幌市中央区北4条西4丁目1番地
伊藤・加藤ビル4階
TEL : 011-218-7811 FAX : 011-218-7812